

## 令和6年度 第2回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和6年9月26日(木)午後3時00分～5時00分

○場 所 能代市役所 大会議室

○案 件 人口ビジョン改訂及び次期総合戦略の策定について

・人口ビジョン素案について

・次期総合戦略策定に向けた意見交換

○内 容 4グループに分かれ意見交換 60分

○グループ内容

| A   | B               | C            | D          |
|-----|-----------------|--------------|------------|
| しごと | 人の流れ<br>(移住・定住) | 結婚・出産<br>子育て | 能代市の<br>魅力 |

## ＜総合戦略会議での意見交換の概要＞

### グループA

#### ■ 班別意見交換の議事概要

##### ① 人口減少や若い人の流出、高齢化が課題であり、若者にとって魅力のある仕事の創出が必要

- 人口減少スピードやこの年齢構成が変わっていかないと、新たな産業を興しても働く人がいないということになりかねない。人口減少は既に課題であり、地域経済のパイが縮小していくという危機感をいっている。
- 高校生の結婚願望は高いが、進学や就職で能代市から出ていってしまう。能代市に残っている19歳以上の方の結婚願望が低くなっているということは、地域に魅力がないのではと感じる。また、地域の有効求人倍率は高いが、応募は中々増えていない。この現状について、求人と若い人の希望の仕事にミスマッチが生じているのではないかと。若者に魅力のある仕事を創生する必要があると考える。
- P.33ページの人口動向分析の男女別産業人口を見ても、男性は力仕事、女性は医療介護が多い。男女で就く業界に偏りがあることが分かり、男性女性にばらつきがなくなるように、もっと仕事の選択肢が増えてほしい。

##### ② 若者の離職を防ぐための働きやすい環境づくりが重要

- 若者の離職率等に関していえば、最近高いように感じる。仕事に対して理想と現実のギャップがあるのではないかと。能代の産業や様々な仕事について、学生の早いうちに伝えていくべきと考える。
- 確かに女性は医療福祉、男性は建設業の特化係数は他の地域に比べても高い。離職率については、ハローワークの所長は以前、『能代市管内の離職率は高い。由利本荘に勤めていた時は離職率が低かった。理由としては、学生時代から先輩や友達と仕事情報のやり取りが密にされている。』とのことだった。由利本荘には TDK などの製造業が多い等の特徴があるかもしれないが、能代はそういった社会人の生の情報流通が少ないように感じている。(事務局:能代市)
- 職場の中で若者があまりコミュニケーションを取らなくなったことも要因ではないか。
- 私の勤務先でも価値観に世代間ギャップがあり、仕事以外の職員同士の付き合いも少なくなっている。飲み会を開催しても参加する若手は減っている。
- 職場環境が昔と変わっているのは確かである。仕事を通して地域に留まってもらう、呼び込むという観点でも能代市は移住促進に一生懸命取り組んでいるところである。(事務局:能代市)

##### ③ 能代市の暮らしやすさや仕事の魅力などの PR がより必要

- 私は 43 歳になるが、自分の年代は一通り U ターンし尽くした感覚である。能代市に戻ってくる人は 30 歳代前半で結婚出産を機に戻ってくるケースや、地元に住みたい、暮らしやすいという理由で U ターンした人は周りにいた。結婚、出産はきっかけになると思う。また、子どもが小学生になるまでなら U ターンで戻りやすいのではないかと。

- 給与水準が多少低くても、生活の費用が都会に比べて安く済むというのも住みやすさの要因になっていると考える。
- 東京での移住説明会やセミナーで、給与水準は低いが物価も家賃も安いこと、通勤にかかる時間も少なく済むことで自由な時間が生まれること等を伝えており、もっとPRしていく必要がある。(事務局:能代市)
- 今後も中国木材のような能代市にとって規模が大きい企業を誘致できれば強みにはなるが、本社と離れてもオンラインで働ける環境があれば良いと思料する。
- 常盤地域にシェアオフィスがあり、そこにIT企業が進出しているがまだまだ数が少ない。秋田市で印刷業をしている会社だがウェブデザインの仕事が増え、新しく会社を立ち上げた。場所も新しくということで能代に来てくれた。首都圏にも求人をかけており数人入社されている。(事務局:能代市)
- 製造業の中には求人にも苦労しているところも多いようだ。親世代などがもつイメージや偏見もあるように思える。今は製造業や農業でもドローンや自動運転などIT化が進んでおり、若い人には受け入れられやすいと思料する。
- 仕事のことをよく知らないからマッチングがうまくいかない可能性もあり、仕事についてもよく知ってもらうことが必要といえる。(事務局:能代市)

#### ④ 学生の職業選択や地元就職の考えについて分析する必要

- 市内の学生について、能代高校は進学して他の地域で就職するという流れはあるかもしれないが、技術・科学分野(能代科学技術高校)を含めて、人手が足りていない建設業や製造業の求人数に対して、能代市にあまり就職していないと感じる。
- 県外からの求人もかなり本市に来ている。昨年は60人程度の高校生が能代市で就職したと記憶しているが、今年の春については地元に残って就職する学生はさらに少なくなった。(事務局:能代市)
- 求人倍率が2倍のころもあり、人手が足りていない。マッチング以前の問題の可能性も考えられる。(事務局:能代市)
- 能代にない職種に飛びついているのか、条件で選ぶのか、実態を把握したほうが良いと考える。(事務局:能代市)
- アンケートの通りITを希望する人や都会への憧れもあるのではないかな。
- 成人式の時はアンケートを取っているか。人が一度帰ってくるタイミングであり、県外に住む人の意識はどうなのか、これから地元で就職するか等意識の変化は知りたい情報である。
- アンケートは取っている。丁度集計をしているところであり、情報を集めておく。(事務局:能代市)
- ①の3つ目で言われた通り、地元で就職してみると現実的に結婚は厳しいと考え、結婚願望が落ちている結果になっているという分析は今の話でも繋がっていると考え。(事務局:能代市)
- 給料の問題や将来の育児が大変と考える人も多いのではないかな。

#### ⑤ 学生にボランティアの経験をしてもらうことは結婚や育児への肯定感を高めるのに有効ではないか

- 育児については学生時代のころからの印象で意識が変わると考える。中学生の時に幼稚園のお手伝いをしたときに子どもと触れ合った経験は印象に残っている。介護も同じであると思料する。ボランティアは意識を変えるうえで有効と考える。

- 以前高校生の調査でも、子どもと触れ合う機会があった人は子どもを持ちたい比率も高いという結果だった。(事務局:能代市)
- ボランティア活動に対して住民からのお褒めの言葉や感謝が嬉しいし、そういった経験が重要と考える。

⑥ 他のテーマとリンクした施策の検討を行い、能代にしかないものを作してほしい

- 今回人口ビジョンの改訂では、能代市の現状や課題を整理していただいているが、最終的な施策の方向性を聞きたい。
- 人口ビジョンは将来の人口を推計したものであるが、その背景としてしごとや人の流れ等4つのテーマに分けて現状を分析した。人口ビジョンを踏まえて総合戦略によって施策を考えていくものとしている。(事務局:能代市)
- 前回の会議でも話したが、「しごと」だけの括りで議論をしても他の分野とリンクしているため、全体を見ながら施策の整理ができているのかが気になるところである。
- 認識の通り、「しごと」にとどまらない話になるため、抜け漏れなくこれから施策を組み立てていきたい。(事務局:能代市)
- 能代でなければならない何か飛びぬけたものを作っていかなければならないと選ばれることはなくなると考える。
- JAXA や水素や風力発電などはあるが、強みを活かせるようなものを考えていきたい。(事務局:能代市)

⑦ 能代市の人口ビジョンについて、学生との対話機会を創出してはどうか

- 減り方は加速するのではないかと考える。一定のところまで人口が減ると、更に地域へ見切りをつける人も出てくると思料する。
- 同意である。ここまで減るとなると、対面サービスをする職業はほとんど成り立たなくなる。暮らしにくくなれば、外に出ようとする人も増え社会減のスピードが加速するのではないか。
- こういった会議の場に高校生をお呼びしてざっくばらんに意見を聞いてみたい。

## グループB

### ① 人口ビジョンで推計した人口規模と同等の市町村のイメージを共有してほしい

- 2点ある。1点目が、能代市の人口の将来展望として、21,992人を想定しているが、この人口規模に向けたビジョンを描くべきなのか、それともこの人口規模にしないためのビジョンを描くべきなのか、どちらを考えているか。2点目が、約21,900人規模の都市は、人口規模からみてどのような市町村をイメージすればよいか。具体的な市町村のイメージがあれば教えてほしい。
- 1点目については、人口ビジョンは目標ではなく、社会動向や自然増減・社会増減の動向を把握した上で人口推計をしたものである。その上で、国や県のビジョンを勘案し、デジタル化や各種課題解決の取り組みをしていく中でどのように進んでいけば誰もが幸せに生活できる社会になるかを考えるものである。2点目については、県内市町村の人口規模を勘案しながら、市町村のイメージについて考えたいと思う。(事務局:能代市)

### ② 社会動向の人口推計への影響について、教えてほしい

- 資料P35で社会動向を整理しているが、こうした社会動向を人口推計に加味しているか。加味しているのであれば、人口推計への定量的なインパクトについて教えてほしい。
- ここで整理している社会動向を定量的に加味して人口推計をしたわけではなく、あくまでも外部環境である社会動向を整理したものである。今回の人口推計では、人口の自然減・社会減を徐々に抑制していけば、社人研の示す人口推計よりは上振れる可能性があることを示している。(事務局:能代市)
- 社会動向によっては、人口にプラスだけでなくマイナスに作用するものもあるだろう。

### ③ 人口減少が社会に与える影響等について、教えてほしい

- 今回推計しているように人口が減少した場合、能代市として一番影響を受けることはどのように考えているか。
- 社会インフラ(公共施設等)の維持や民間でもサービスの低下において、市民生活に影響が出てくると考えている。(事務局:能代市)
- 外国人が増えていくことを想定しているか。
- 当市として、外国人の受け入れに向けた取り組みは初期段階であるため、数字に反映されるのはもう少し先の段階になるだろう。(事務局:能代市)

### ④ 人口減少に対しては、行政だけでなく民間企業も巻き込んだ対応が必要

- 子育て支援や結婚支援について、いつまで国や行政が考えなければいけない課題なのか。民間企業の方がアイデアは多いと考える。行政だけの責任ではなく、人口減少に対して民間企業もできることがあるのではないかと。人口減少や人手不足に対して、AIやロボット等を取り入れるなど民間企業が取り組めることもあるだろう。行政だけでなく民間企業も巻き込んだ対応が必要ではないか。

## ■ 人の流れ(移住・定住)に対するご意見

### ① 若い世代の意見を聞くことやふるさと教育の充実が必要

- 商工会では「秋田の未来を創る協議会」が結成され、その代表者会議で地元の高校生や大学生が提案した東能代駅の「スイッチバック運行」に取り組むことが承認された。このように若い世代の意見を聞くことも重要だろう。
- 若い人達は能代に対して、マイナスのイメージを持っていると思うが、そうしたイメージを払拭するためにもふるさと教育を実践すべきである。地元のお祭りの紹介といった地域の良さを伝えることが重要。

### ② 移住を促進するためには、当地域独自の強みを模索し、その強みを徹底的に発信することが重要

- 空き家の有効活用だけでなく、空き店舗も有効活用する必要があるだろう。縫製関係の事業を行うために関東から移住してきた人もおり、当地域の魅力に惹きつけられて、新たな事業や移住につながることもある。新たな事業や移住につながるような地域情報・地域の魅力の外部への情報発信が必要だろう。
- 旅行に行きたいと思わないところには、住みたいとは思わない。そのため、まずは旅行に行ってみたいと思ってもらえるような動画や SNS での情報発信が必要。その際には必ずしもプロが作るものではなく、お金をかけずに一般の人が情報発信することも必要。まずは、行ってみたいと思ってもらえるようなまちづくりをすることが重要。
- 能代市にまったく関係のない人(Iターン)を呼び込むためにはどうすればよいか。当市に全く縁のない人をフックするためにはどのようなことが考えられるか。ある地域では、離婚したシングルマザーを対象に移住定住促進のためのイベントを実施しているようである。別れた配偶者となるべく会いたくない・引き戻されたくないという心理的な理由から、遠く離れた縁のない場所に住みたいというニーズを狙って移住定住を促進しているようである。こうした事例はあくまでも例ではあるが、このように能代市に行きつく何かしらのルートを作ることができないか。移住定住とは異なるキーワードから能代を連想できるような強みがあれば良いと考える。
- 例えば、「バスケ」があるだろう。
- 東京でできないことや米・日本酒などの特産品に誇りをもつべき。東京一極集中にしないためにも、当地域でしかできないことを行政と民間でブラッシュアップして、発信していくべきだろう。やはり、バスケは強み。例えば、スラムダンクのユニフォームを着てもらい、バスケ日本代表のエキシビジョンマッチをすることも考えられる。
- 当市独自の強みを徹底的に発信していくべき。

### ③ 外部に魅力を発信するためにも、まずは地域資源の掘り起こしが重要

- 白神山地について、自然保護だけでなく、もう少し開放して見学を可能にするような活用の仕方ができるのではないかな。
- 合併前には二ツ井町では白神山地を「バイオバレー」という捉え方をしていた。各種酵母菌などの菌の宝庫と捉えて、酵母菌の研究施設の誘致をすることもできるのではないかな。バイオを白神山地の地域資源と捉えることもできる。

- 当市には木材高度加工研究所があることから、併せて酵母の研究をしてもらうことも考えられる。
- 白神山地には乳酸菌 GABA がある。こうした乳酸菌を活用して、八峰町の龍角散のように地域資源の掘り起こしや活用をしていくことが重要。

④ 当地域への回帰促進のためには、当地域の仕事に憧れを抱いてもらうことが重要

- 地域への愛着を高めるためには、幼少期からのふるさと教育が重要だろう。
- 子どもだけでなく、両親も東京等の大学進学を推奨している風潮があるのではないかな。
- 能代市は他市町村よりも転出を容認する傾向があるようである。  
(事務局:能代市)
- 子どもに当地域の仕事に憧れを抱いてもらうことも重要である。進学を機に転出をした場合でも、当地域に戻ってきてもらうためには地元で働くことを子どもの憧れにすることが必要だろう。
- 他市町村では、以前よりも事業承継が難しくなっているようである。従来は息子が継いでくれることが多かったが、息子に「戻ってこい」と言えないという意見を経営者から多く聞く。能代は他地域と比較すると若い経営者が多い印象であるものの、事業承継も課題の一つとしてある。
- 若い経営者に代替わりした事業所の方が変化に対応できるため上手くいっている印象である。
- 50・60代で事業を継承された経営者は苦労している印象であるため、早い段階で事業承継することが望ましいだろう。

⑤ 高校進学を選択肢を増やすためにも、学校再編においては定時制も視野に入れるべき

- 能代高校二ツ井キャンパスのように昼間の定時制課程も子どもの選択肢を増やす観点では視野に入れるべきだろう。当市の近隣地域からも学生が来ており、募集人数は少ないものの、募集人数を上回る出願があり、入学希望者も相応にいるようである。地域のボランティア活動の参加など、子ども達が来ることによって、まちにも活気が出る。学校再編においては定時制という学校の在り方も考えられる。
- 通信制の高校も考えられる。選択肢が多ければ人が多くなり、地域行事への参加も期待できる。

## グループC

### ① 能代市には多様な出産ニーズを満たせる医療資源が少なく、広域での機能分担・連携が必要

- 家族で7年前に県外より移住。夫、子ども3人。自身の弟も能代に移住してきたが、出会いがないことと娯楽の場がないという悩みがあるようだ。
- 出産できる病院が少なく里帰り(県外)出産を検討したが、子どもの預け先を考えると里帰りでの出産をあきらめ、能代市に留まって出産することを決めた。ただ、計画出産や無痛分娩など選択肢を考えると能代市ではなく、秋田市で出産という選択となった。
- 出産に関する市民意識が転入前と能代では異なると感じた。転入前では計画出産や無痛分娩が当然の選択肢となっているが、能代ではそうでない実態がある。
- 医療圏の再建に向け、北秋田市では市民病院の産婦人科が分娩を中止するとのことである。地域間での役割分担で補完できればいいのではないか(事務局:能代市)
- 30年前に能代市に居住していた。当時は保健所に勤務しており、開業医が多かった。現在は1つの自治体だけですべてを備えることはリソース的に無理。都市機能と田園機能を分担するという考え方も必要ではないか。

### ② 小児科や病児保育など、子育て世帯が安心して暮らせる環境整備が必要

- 能代での生後2か月の子どもを預けている実態に触れ、驚愕した。転入前の場所では生後6ヵ月からが慣例。地域性を非常に感じている。子どもが病気の際の預け先には苦慮する。
- 病児・病後児保育施設を開設している。ただし、常に病気の子どもを受け入れているわけではない。しかし、スタッフを常時確保する必要があり、実際のところは無理して開設していただいている。(事務局:能代市)
- 結婚・出産・子育てとなると、これに限らず、気持ちの問題(=安心できる)という施策方針になるのではないか。経済的支援、近所に子どもを見てくれる、地域として構築できれば人が流入してくるのではないか。

### ③ 能代市の子育て環境や経済的支援は近年、充実化傾向との実感

- 能代での子育ては良いこともあり、保育園での支援は手厚く、非常に満足している。
- 家族(夫)の支えも重要と思うが、いかがか。
- 能代での子育てで、夫が成長したと感じる。
- 出産を受け入れてくれる個人開業医がない、1つの総合病院という実態。小児科は2施設しかない。
- 我が家は家業を継いでおり、夫婦共働き。妻も自分も同じく働いている状態であるのにも関わらず、妻の方が育児、家事に費やす時間が多いと感じている。どちらも対応できる状態にある場合には、妻に甘えてしまっている実態がある。
- 自営業には育児休業という概念がなく、休むということは収入に大きく影響するため育児のために休むことはない。



- 保育料の第3子無償は助かるが、子育て世代の経済的な面での課題感は友人の実態を見ても同様の状況。このほか、おむつやミルクなどを支給してくれる定期便制度があり、子育てにかかる費用負担が軽減されるのは非常にありがたい。出産や子育て支援制度は4年前よりかなり充実していると感じている。
- このような制度があるということを知らない人もいるのではないかな。もっとPRすべき。

④ 企業の子育て支援意識の醸成は大規模事業所では進むも、広く浸透してはいない現状

- 比較的休暇は取りやすい環境。会社の方針としても、子育て支援に寛容。男性社員も3カ月ほどの休暇を取得している実績もある。ただし、他の企業は厳しいものがあるのではないかな。(事務局:委託先事業者)
- 企業支援が大事なのではないかな。
- 業界全体で子育て支援の機運を盛り上げていく必要があるのではないかな。一企業だけの取組みでなく広がりが必要。

⑤ 子どもの郷土愛を育むためには、地域資源を生かした教育機会の創出が重要

- 定住を促進するためには、能代に住むことの価値を見出すことが必要。能代には価値ある資源が非常に多くある。この価値をアピールできるとよいのではないかな。
- 子どもの頃からの教育が重要であるが、学校との連携が難しい。現在、子どもが220人しか生まれないことを理解いただけると、今すべきことは何かを理解いただけるのではないだろうか。
- 新しい企業を誘致しても、市民感覚では恩恵を感じられない。メリットを明示できるといいのではないかな。
- 能代のことで、知らないことが多いと感じる。
- 子どもだけでなく、親世代も能代市のことを知らない実態がある。淳城西小学校と交流する機会があったが、例えば当学校でJAXAの人に講話をしてもらえないかと思っており、その際には親世代も巻き込めないかと考えている。
- 本日の資料のアンケート結果では、市外に進学等を予定していても将来、能代市に帰ってきて何かをしたいと思っている子どもたちも一定数存在しているようである。
- また、能代は未来技術が集積している地域であり、慶應大学が利活用している水素燃料実験施設もある。当該施設を子どもたちに見学させるなどのこともよいのではないかな。

⑥ 地域ぐるみで子どもを見守り、育むしくみづくりが期待されているが、同時に活動資金の確保が課題

- 市民アンケート調査結果では、中高生で幼い頃に子どもと触れ合った経験があると将来子どもを設けたい意向が強くなるという結果があった。このような情報に触れると、子どもの頃からの学びや経験が重要であり、必要であると感じた。
- 地域の中で、高齢者や子どもたちに昔あそびや知恵、勉強を授けてくれる拠点があるといいのではないかな。

- 世代間、職種間、学校間など、多様な交流機会があるとよいのでは。
- 寺子屋のようなものがあってもよいのではないか。
- 夜、子どもを預かってくれたり見てくれたりするしくみがあると良い。
- 顔の見える関係が構築できるといい。キーパーソンや企業、団体がプラットフォームを創っていくことが重要ではないか。地域には何か役に立ちたいと思っている人もいるはずである。
- 地域おこし協力隊には子育て支援分野がない。先日、能代高校のインターンシップで能代市役所の人と議論させたら非常に良い気づきを得たと聞いている。教育分野においては、外部からの刺激を受けることも有益。
- 地域での各種活動もボランティアベースでは厳しい。マネタイズが必要。人材はいても資金面で苦慮している実態がある。補助金が活用できる団体はいいが。
- 教育は無料という意識がある。勉強はお金を出してするもの。意識改革が必要。

#### ⑦ まちづくり、人づくりには住民への情報周知が重要

- まちへの関心度によって、情報格差があると感じており、とりわけ無関心層への情報周知が課題である。市では10月に公式ラインを作る予定。利用登録するとあらゆる情報が取得できるようになる。これを機に、情報発信に注力したい。(事務局:能代市)
- この1～2年で情報入手が容易となったとは感じている。
- 子育て世帯は仕事に育児にと余裕がない。そういう世代でも手軽に入手できる環境整備が整うということは非常に喜ばしい。
- 能代・山本地域では約35,000世帯が北羽新報を購読している。子育てや女性活躍、子どもたちによる特徴的な取り組みなどを特集し、定期的に発信してはどうかと意見交換している。

## グループD

### ① スポーツを活かしたまちの魅力向上のためには、子どもの頃からスポーツに親しむ環境づくりが必要

- かつて、能代市には有名人のスポーツ選手がおり、小野喬さんや山田久志さんなどが活躍していた。スポーツで町おこしをするために、スポーツ施設を新設し、学生の部活動の合宿を呼び込むことができればよい。
- 今の時代、スポーツ選手を見ると幼少期から専門的に取り組んでいるように見える。そのために、スポーツ施設を整備して、子どもたちに環境を提供するのがよい。地域の人間がそれを応援することで、能代が良い方向に行くと考え。子どもが能代市を盛り上げる存在になるとよい。
- 水泳についても、能代市の子どもは、インターハイ等で好成績を残しているが、練習施設をみると劣化が進んでいるように見えるので、サポートをしてあげたい。
- お示した人口ビジョンの中に、スポーツという項目があるが、これは、シニアをイメージしたものとなっている。今回の議論を踏まえると、幼少期からスポーツに親しむという視点も戦略に盛り込んだ方がよいか。  
(事務局:能代市)
- 教育の中にスポーツは必要であると考えている。

### ② 能代市の自然を活かした、まちの魅力づくりを考えるべき

- 能代の自然といわれて思い浮かぶのは、海と「風の松原」
- 。
- ネットで海産物のおいしい店を調べても1つ、しか出てこなかった。魅力という点では、海も活かせるはずであるが、青森や福島などの他地域に比して、アピール力の弱さがネックになっているのではないか。
- 漁業組合がなくなってしまったので、海の幸のアピールは難しいかもしれない。
- 山の幸を見ると近隣では藤里のブルーベリーなど良いものがあると考えている。名産を用いた商品を作る際は、リピーターを獲得するために、顧客の期待値を超えることが必要なのではないか。
- 自然を活かすという観点では、農業を活かすこともできるのではないか。藤里町ではアルビオン白神研究所(株式会社アルビオンの研究施設)がブドウの栽培を農家に依頼し、化粧品を作っている。ただ、企業を誘致するだけでなく、関わり方を大切にすべきである。
- 観光とは、やや異なるが、洋上風力の視察などでは、多くの人を訪れている。R5年は、15組300人となっている。

### ③ 地域コミュニティを大事にしていく必要がある

- 能代の地域コミュニティは良いと感じている。マルヒコビルディングや駅前の古着屋など、若者のニーズもくみ取れていると感じている。また、能代七夕「天空の不夜城」では、地域のつながりを感じられるし、地元の子どもたちには良い。

④ 医療や公共交通へのアクセスが不便であるため、環境の改善やアクセス支援等の対応が必要

- 都市部に比して、病院が少なく、交通が不便なことも相まって、アクセスが難しい。もし、大きな医療機関が誘致できれば、能代の大きな魅力になる。
- ニツ井も歯科がなくなってしまう、不便になっている。また、交通の不便を抱えている人は、サービスにたどり着けない状況である。高齢者向けに様々な機関があるが、高齢者はそれらの役割分担が分からないので、いざというときに頼れるような窓口が1つ必要なのではないか。

■ **人口ビジョンに対するご意見**

① 人口の流出は抑制されつつあるが、若者の流出による雇用の確保が困難

- いずれ、秋田道が全線開通することにより、流入が期待できるが、逆に流出の方が多くなってしまうのではないかな。
- それについては、流出と流入の両面がある。交流が活発化するのは良いことであると考えている。(事務局:能代市)
- 人口の将来展望は、市が算出したものか。
- 市で算出したもの。(事務局:能代市)
- 人口減少は抑制されるのか。
- 社会減は抑制されつつある。他方、人口そのものは減り続けている。(事務局:能代市)
- 洋上風力関連の従事者は、住所を移しているのか。
- 設置の際の作業員は、住所を移さないが、メンテナンスについては住所を移している人もいる。(事務局:委託先事業者)
- 高校生の有効求人倍率が約 50 倍となっている。
- 高校卒業後は殆どが市外に行ってしまうので、人材の取り合いになっている。(事務局:能代市)
- 他方で、子どもたちについて考えると、高校卒業後の進学先や就職先がなく、市外に出て行ってしまう。就職先という観点では、企業を誘致し、誘致した企業と地元民が手を組んでいけたらよい。

## 全体会

### ○質疑応答

Q 資料にある人口ビジョンの推計は、国・県で示している高い出生率を基礎に算出している。もっと現実的な出生率で算出する必要はないのか。

A 今般の人口ビジョンは、国・県のビジョンに沿った形で作成したものであり、ご指摘どおり厳しい数値と認識している。しかしながら、現状を維持するような施策を展開し、推計値に近づけていく方針である。人口ビジョンはその時々状況を踏まえ見直していくものであり、今回はお示しした内容のとおりとさせていただきたい。

(事務局:能代市)